木戸病院医誌

2014　VOL. 13

新潟医療生活協同組合
木戸病院
HEALTH CO-OP NIIGATA SINCE 1975

木戸病院の理念

協同互助の精神に基づき、組合員、地域住民の医療・保健・衛生・福祉の向上を図る

基　本　方　針

1）生涯にわたる健康管理活動の支援

2）生活習慣病の予防と早期発見

3）「患者の権利章典」の豊かな実践

4）診療情報の開示

5）全人的医療を指向

目　　次

Ⅰ．巻頭言

病院長　阿 部 要 一 …… 1

Ⅱ．病院概要

1．基本情報 …… 2

2．施設基準 …… 2

3．沿革 …… 6

4．院内のご案内 …… 8

Ⅲ．寄稿

1．新しい木戸病院医誌について　研究部長　河 井 一 浩 …… 13

2．東新潟循環器研究会の発足の経緯とその後の活動を振り返って

循環器内科　津 田 隆 志 …… 14

Ⅳ．2013年度臨床指標・診療実績 …… 19

Ⅴ．2013年度活動報告・研究業績

1．診療部

一般内科 …… 23

循環器内科 …… 24

呼吸器内科 …… 25

糖尿病内科・内分泌内科 …… 26

腎臓内科 …… 27

消化器内科 …… 28

神経内科 …… 29

小児科 …… 30

産婦人科 …… 31

外科 …… 32

整形外科 …… 36

皮膚科 …… 37

耳鼻咽喉科 …… 45

眼科 …… 46

歯科口腔外科 …… 47
石山診療所 …… 48
木戸クリニック …… 49
2．看護部 …… 50
3．医療安全管理室 …… 51
4．薬剤部 …… 53
5．診療技術部
検査科 …… 54
病理検査科 …… 55
放射線科 …… 56
リハビリテーション科 …… 57
栄養科 …… 58
臨床工学科 …… 60
6．事務部 …… 61
7．地域包括部 …… 62
8．健診センター …… 63
9．研究部 …… 64

Ⅰ. 巻　頭　言

病院長　阿　部　要　一

本年は、大型台風による広島での土砂災害、御嶽山噴火など自然災害が頻発し、多数の犠牲者が出ています。自然の猛威の前には人間の力は微々たるものと思わざるを得ません。

医療の分野でも、本年度の診療報酬改定による影響は顕著で各病院ともその荒波に翻弄されています。

平成26年４月１日からは、平均在院日数の計算方法として、在日日数90日を超えた患者も含めることとなり、また、短期滞在手術等基本料３のみ算定した患者は除くこととなりました。

一般病棟入院基本料10：１を算定している当院での施設基準は平均在院日数21日以内であり、達成するために、入院時から退院調整、退院により、空床となったベッドを埋めるために新入院患者の獲得が重要となりました。

このような体制を維持すべく検討を重ね、急性期治療にて病状が安定したが、在宅復帰に向けて、もう少しリハビリや退院調整期間の確保が必要な方、退院までもう少し経過観察が必要とされる方の受け入れ、近隣高度急性期病院からの転院、在宅・介護施設からの緊急時の受け入れなどに利用していただく病棟として、９月１日に地域包括ケア病棟 ― 病床数55床（緩和ケア病床10床含む）―を開設しました。入院期間として60日を限度としておりますが、当院の後方支援施設として特養、ショート、老人施設等、サ高住など約550床があり、連携することにより、退院後の受け入れ体制に支障をきたすことはないものと考えております。木戸病院を中心とした地域包括ケアシステムの一環を占めるものとなります。

皆様のご利用をお願い申し上げます。

なお、新潟県の医師数は全国的にみても人口10万人当たり191.2人で、全国平均（230.4人）と比較し約39人少ない全国第42位となっており、医師の絶対数不足は深刻です。当院でも医師確保は重要課題であります。

本年も「高校生病院医師体験」を企画し７月22日、29日、８月５日、19日、28日と５日間にわたって行われました。県内７校（柏崎高校、国際情報高校、三条高校、新潟高校、新潟中央高校、新潟南高校、新津高校）より合計21名の参加がありました。参加された生徒さんは今回の体験で、より医師になる気持ちが強くなり、自分の夢に向かって頑張りたいなどの感想をいただきました。

また、当院独自の基幹型臨床研修病院を目指し、準備してまいりましたが、この度、９月５日付けをもって、指定されました。若手医師の受け入れは病院の活性化につながります。今後、研修医にマッチングしてもらうためにも、魅力ある病院を目指し、研修体制の整備、拡充を進めます。

新潟市東区域の医療の中心となり、組合員、利用者から信頼される病院を目指し、職員一同全力で仕事に取り組むつもりであります。

職員の努力の成果を発表する木戸病院医誌第13刊を発行することとなりました。是非ご一読頂ければ幸いに存じます。

II. 病院概要

1. 基本情報

病　院　名　　新潟医療生活協同組合　木戸病院
開 設 者 名　　矢田　省吾（新潟医療生活協同組合　理事長）
病 院 長 名　　阿部　要一
副 院 長 名　　津田　隆志
　　太田　隆志
　　山田　　明
開設年月日　　昭和51年５月６日
病　床　数　　一般病床：312床
所　在　地　　〒950-0862　新潟県新潟市東区竹尾４丁目13番３号
　　ＴＥＬ：025－273－2151（代表）
　　ＦＡＸ：025－273－8360

診 療 科 目（26科目）
　　内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、糖尿病内科、内分泌内科、腎臓内科、神経内科、心療内科、外科、消化器外科、整形外科、精神科、アレルギー科、小児科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、歯科、小児歯科、歯科口腔外科、麻酔科

看 護 基 準　　入院基本料１（10：１）

2. 施設基準

《初診・再診料》
　　地域歯科診療支援病院歯科初診料
　　歯科外来診療環境体制加算
　　歯科診療特別対応連携加算

《医学管理》　　透析液水質確保加算
　　糖尿病透析予防指導管理料
　　院内トリアージ実施料
　　夜間休日救急搬送医学管理料
　　外来リハビリテーション診療料
　　糖尿病合併症管理料
　　がん性疼痛緩和指導管理料

がん治療連携指導料
がん患者指導管理料１,２
小児科外来診療料
ニコチン依存症管理料
肝炎インターフェロン治療計画料
薬剤管理指導料
医療機器安全管理料１
在宅患者歯科治療総合医療管理料
抗悪性腫瘍剤処方管理加算
外来化学療法加算１
無菌製剤処理料

《手術　等》　歯科技工加算
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
大動脈バルーンパンピング法（ＩＡＢＰ法）
医科点数表第２章第10部手術の通則５及び６に掲げる手術
歯周組織再生誘導手術
早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
人工肛門、人工膀胱造設前処置加算
輸血管理料（Ⅱ）
麻酔管理料（Ⅰ）
輸血適正使用加算
経皮的冠動脈形成術
経皮的冠動脈ステント留置術
胃瘻造設術
胃瘻造設時嚥下機能評価加算
麻酔管理料（Ⅰ）

《検　　査》　造血器腫瘍遺伝子検査
ＨＰＶ核酸検出
検体検査管理加算（Ⅱ）
皮下連続式グルコース測定
内服・点滴誘発試験
植込型心電図検査
時間内歩行試験
ヘッドアップティルト試験
神経学的検査
ＨＰＶ核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）
持続血糖測定器加算

《画　　像》　ＣＴ撮影及びＭＲＩ撮影

《リハビリテーション》
脳血管疾患等リハビリテーション（Ⅰ）
運動器リハビリテーション（Ⅰ）
呼吸器リハビリテーション（Ⅰ）
がん患者リハビリテーション料

《入 院 料》　一般病棟入院基本料（10対１）
地域包括ケア病棟入院料1（５階病棟）
救急医療管理加算・乳幼児救急医療管理加算
妊産婦緊急搬送入院加算
診療録管理体制加算２
医師事務作業補助体制加算２（15対１）
急性期看護補助体制加算
療養環境加算
重症者等療養環境特別加算
退院調整加算
医療安全対策加算１
感染防止対策加算１
患者サポート体制充実加算
救急搬送患者地域連携紹介加算
ハイリスク妊娠管理加算
救急搬送患者地域連携受入加算
総合評価加算
データ提出加算２
病棟薬剤業務実施加算

《歯　　科》　歯科治療総合医療管理料
クラウン・ブリッジ維持管理料
歯科口腔リハビリテーション料２

《そ の 他》　入院時食事療養（Ⅰ）
食堂加算

学会指定施設　日本内科学会認定医制度教育関連病院
日本消化器内視鏡学会指導施設
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
日本呼吸器学会認定施設

日本糖尿病学会認定教育施設
日本腎臓学会研修施設
日本外科学会認定医制度修練施設
日本整形外科学会認定医制度研修施設
日本産婦人科学会認定医制度卒後研修指導施設
日本肝臓学会関連施設
日本消化器病学会関連施設
日本皮膚科学会認定施設
日本静脈経腸栄養学会ＮＳＴ稼働施設
マンモグラフィ検診施設
日本臨床細胞学会認定施設
日本透析医学会専門医制度　新潟大学歯学総合病院教育関連施設

指定医療機関　臨床研修病院
歯科臨床研修病院
救急指定医療機関
健康保険法指定医療機関
国民健康保険指定医療機関
生活保護法指定医療機関
優生保護法指定医療機関
結核予防法指定医療機関
原爆医療法指定医療機関
身体障害者福祉法指定医療機関
日本病院会、短期人間ドック指定
厚生医療指定医療機関
育成医療指定医療機関
在宅酸素療法指定管理施設
労働者災害保障保険医療機関
新潟県肝疾患診療協力病院

新潟医療生活協同組合事業所
健診センター
石山診療所
なじょも
・木戸クリニック
・訪問介護センターなじょも
・訪問看護ステーションなじょも
・デイサービスセンターなじょも
・ショートステイなじょも

・通所リハビリテーションなじょも
・サービス付き高齢者向け住宅CO-OPなじょもガーデン
・在宅介護支援センターあしぬま荘（社会福祉法人　亀田郷芦沼会運営）
・新潟市地域包括支援センター木戸・大形（社会福祉法人　亀田郷芦沼会運営）

石山訪問看護ステーション
訪問介護センターすみれ
ケアプラン石山
介護老人保健施設ほほえみの里きど
フィットネスクラブ withウィズ
病児保育室「きどっこ」

関連事業所　亀田郷芦沼会
・特別養護老人ホーム　あしぬま会
・特別養護老人施設　風の笛
・ディサービスセンター　あしぬま
・ショートステイ　あしぬま
・在宅介護支援センター　あしぬま荘
・知的障害者通所授産施設　ほがらか福祉園

協力施設　特別養護老人施設　あしぬま荘
特別養護老人施設　風の笛
介護老人保健施設　有楽園
介護老人保健施設　アビラ大形
逢谷内デイ・サービスセンター
痴呆高齢者グループホーム　大形
介護老人福祉施設　あわやまの里
介護老人保健施設　松浜さくら園
地域密着型福祉施設　徳蓮荘

3．沿革

昭和50年２月　新潟医療生活協同組合設立許可
昭和51年５月　木戸病院開院（病床数：88床）
診療科：内科、神経内科、循環器科、小児科、皮膚科、歯科
昭和53年４月　ＲＩ室開設、病少数：85床に変更
昭和54年５月　二期工事竣工（病床数：171床）
昭和54年６月　新館での外来診療開始
診療科：内科、神経内科、循環器科、消化器科、呼吸器科、外科、肛門科、小児科、皮膚科、理学診療科、放射線科

昭和59年８月　300床総合病院化計画に着手
昭和60年11月　木戸病院分館新築工事竣工
昭和60年12月　病床数を178床に変更
昭和61年４月　三期工事竣工（病床数：312床）
整形外科、産婦人科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、眼科診療を開始現在の19診療科となる
平成３年　透析ベッド増設、リハビリ施設充実、高橋眼科跡地を事務管理棟に改築
平成５年５月　心臓カテーテル室完成
平成５年12月　四期工事竣工（健診センター）
平成８年３月　石山診療所歯科を病院と統合
平成９年７月　ＭＲＩ導入
平成13年10月　日本医療評価機構より認定（一般Ｂ認定取得）
平成16年４月　厚生労働省より臨床研修病院指定
（新潟大学医歯学総合病院、富山医科薬科大学）、透析室増床（25床→29床）
平成16年５月　当日外来電話予約システムを開始
平成22年１月　電子カルテ稼動
新病院工事着工
平成23年７月　東区竹尾にて新病院開院
診療標榜科
（一般内科、循環器内科、呼吸器内科、糖尿病内科、内分泌内科、腎臓内科、消化器内科、神経内科、心療内科、精神科、小児科、産婦人科、外科、消化器外科、整形外科、皮膚科、アレルギー科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、眼科、歯科、小児歯科、歯科口腔外科、放射線科、リハビリテーション科、麻酔科）
平成24年４月　病院敷地内に病児保育室「きどっこ」開設
平成24年９月　日本医療機能評価機構の病院機能評価Ver.６を受審
平成24年12月　日本医療機能評価機構の病院機能評価Ver.６に認定
平成25年４月　旧病院敷地に複合施設「なじょも」開設
平成25年４月　木戸病院院長に阿部要一が就任

4．院内のご案内

木戸病院　〒950-0862　新潟県新潟市東区竹尾４丁目13－３
TEL．025－273－2151(代)　FAX．025－273－8360
木戸病院ホームページ　http://kido.iryo-coop.com

診療受付・診療時間・面会時間・休診日

診療受付／外来の受付は下記の予約センターをご利用ください。
フリーダイヤル　0120－432－472
携帯電話・公衆電話からは　025－273－2175

診療時間／午前９：00～午後５：00
第２・第４土曜日　午前９：00～午後12：30

休 診 日／日曜、祝祭日、第１・３・５土曜日

午後休診／毎週木曜日、第２・第４土曜日

面会時間／全日
（一　　般）午前11：00～午後８：00
（産婦人科）午前11：00～午後１：00　午後４：00～午後８：00

各階構成

9F	消化器病センター（消化器内科　外科）	53床	
8F	循環器内科　内科　耳鼻咽喉科	54床	
7F	小児科　皮膚科　糖尿病センター 腎臓内科　呼吸器内科	50床	
6F	産婦人科　眼科 歯科口腔外科　消化器内科	50床	
5F	地域包括ケア病棟（緩和ケア病床10床）	55床	
4F	神経内科　整形外科	50床	
			アネックス棟
3F	手術	手術室・中央材料室・病理検査室・薬剤部・ART(不妊治療) SPD(院内物品管理)センター・ME(医療機器保守管理)センター 医局・管理部門・病歴図書室・会議室	講　堂 会議室(2室) 和室会議室(1室) 職員食堂
2F	外来	歯科・歯科口腔外科・産婦人科・眼科・耳鼻咽喉科・泌尿器科・皮膚科 外科・透析室・内視鏡室・化学療法室 放射線科(一般・TV造影撮影検査・アンギオ血管造影検査・骨塩定量検査 マンモグラフィー) 検査室(一般・細菌・生理検査)・患者ラウンジ・学生室	健診センター
1F	外来	総合受付・検査予約センター・内科・心療内科・整形外科・小児科 神経内科・救急センター・中央処理室(点滴・注射・採血) 放射線科(一般・CT断層撮影検査・MRI磁気共鳴画像検査・RI造影撮影検査) 相談室・生協加入コーナー・医事課事務室・地域包括室・診療事務課事務室 ボランティア室・Yショップ売店/スマイルマム・医療材料販売/ドマーニ	コープ健康づくりクラブwith（ウィズ） レストラン/花みずき 美容室/ハートランド

1階ご案内図

各階のご案内

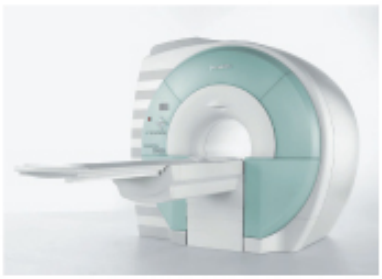
1F

①総合受付　②検査予約センター　③外来（内科・心療内科・整形外科・小児科・神経内科）
④中央処置室（点滴・注射・採血）　⑤放射線科（一般・CT断層撮影検査・MRI磁気共鳴画像検査・RI造影撮影検査）
⑥救急センター　⑦相談室　⑧生協加入コーナー　⑨医事課事務室　⑩診療事務課事務室
⑪地域包括室　⑫ボランティア室　⑬Yショップ売店/スマイルマム　ベーカリー　⑭医療材料販売/ドマーニ
⑮アネックス棟／コープ健康づくりクラブ「withウィズ」　⑯レストラン/花みずき　⑰美容室/ハートランド

1F／平面図

医療材料販売／ドマーニ 1階

総合受付／エントランスホール 1階


放射線科／MRI室　MRI磁気共鳴画像装置

内科／待合室 1階　Yショップ売店スマイルマム 1階　レストラン／花みずき 1階

放射線科／RI室　SPECT（スペクト）断層撮影装置

2階ご案内図

各階のご案内

2F

⑱外来（歯科・歯科口腔外科・産婦人科・眼科・耳鼻科・泌尿器科・皮膚科・外科）
⑲透析室　⑳内視鏡室　㉑化学療法室
㉒放射線科（一般・TV造影撮影検査・アンギオ血管造影検査・骨塩定量検査・マンモグラフィー）
㉓検査室（一般・細菌・生理検査）㉔腹部エコー室　㉕ラウンジ
㉖アネックス棟／健診センター

2F／平面図

TV撮影室

透析室

ラウンジ／2階

アンギオ撮影室

内視鏡室

3階～6階ご案内図

各階のご案内

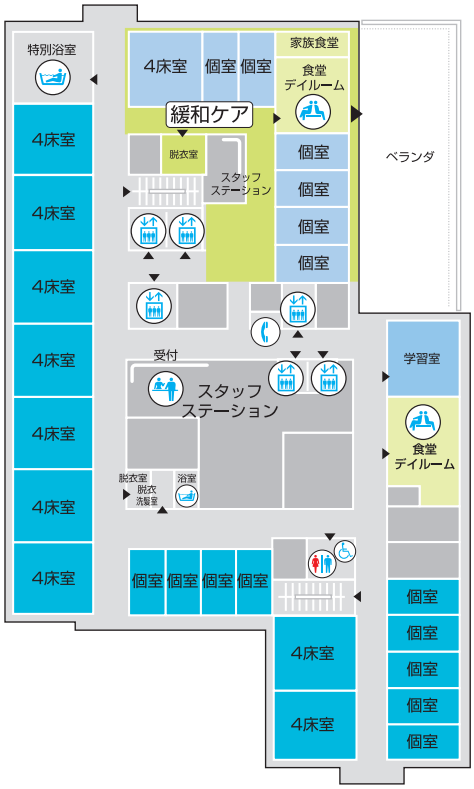
3階

手術室

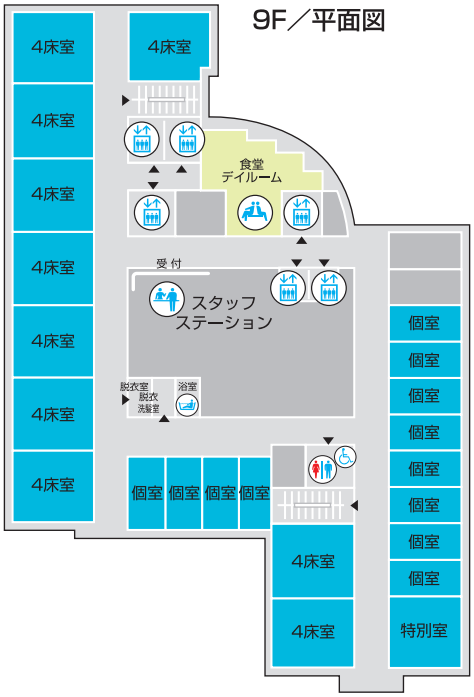
4階

リハビリテーション室

5F／平面図



9F／平面図



6階

LDR室／陣痛～分娩～回復期を家庭にいるような雰囲気の中で、リラックスしてお産ができるお部屋です。

産婦人科／個室（シャワー、トイレ、洗面付）

病棟ご案内図

各階のご案内

4階～9階病棟（312床）

4人部屋

個室

浴室

多目的WC

分散型WC

特別室

交通のご案内

お車でお越しの方

・新潟駅より車で15分。

公共交通機関でお越しの方

≪バス≫平成23年７月１日より、木戸病院行きのバスが運行されています。

・新潟交通：古町～竹尾～卸会館　線

・古町～竹尾～木戸病院　線

・新潟駅南口～中山跨線橋～木戸病院線≪東区・区バス≫松崎ルート

・松崎ルート11便～平日

・松崎ルート5便～土曜・休日

・運賃：200円均一（小学生100円、土曜・休日は現金のみ50円）

降車時にお支払いください。

・「りゅーと」や「Suica」等のＩＣカードの利用も可能です。

Ⅲ. 寄稿

新しい木戸病院医誌について

研究部長　河　井　一　浩

木戸病院医誌Vol. 13の編集にあたり、病院医誌の内容・構成を再検討しました。

もともと病院医誌とは院内からの研究論文や症例報告を掲載する学術雑誌であり、これまでの木戸病院医誌も寄稿論文が中心でした。しかし、学術論文はより多くの読者に読んでもらうことが重要であり、一部の例外を除いて学会誌などの専門誌に原則として英文で発表すべきであると考えます。また、一般的に病院医誌では掲載前にピアレビューが行われていないことも問題です。総説も同様ですが、地域の医療関係者や患者に向けた広報・教育を目的とした解説であれば、病院医誌よりも病院広報誌や新潟医療生協機関誌あるいは病院ホームページに掲載した方がよいと考えます。したがって、今後も寄稿は歓迎しますが、学術論文を中心とした編集方針には限界があると考えます。

病院医誌にはもうひとつ業績集あるいは年報としての役割があります。これまでの木戸病院医誌にも論文・学会発表などの研究業績は掲載されていましたが、診療実績については最低限の情報しか掲載されていませんでした。そこで新しい試みとして、各診療科・部署ごとに診療実績や独自の取り組みを含めた年度活動報告を形式は指定せずにお願いしました。多忙な中、執筆期間が限られていたことや部長が交代した診療科・部署もあったため、内容的にはまだまだ十分ではありませんが、今後は診療実績の公開の場としても活用したいと考えており、病院ホームページからも閲覧できるようにすることを検討中です。

新しい木戸病院医誌についてご意見をお寄せ下さい。

東新潟循環器研究会の発足の経緯とその後の活動を振り返って

循環器内科　津　田　隆　志

１．発足当時の状況

平成17年９月にスタートした、「東新潟循環器研究会」（年２回開催）も９年目を迎え、次回には17回を重ねるまでになりました。当時は、病院医師と地域の開業医の先生方との「顔が見えて、お互いに紹介し合える病診連携がしたい」との強い思いで企画させていただきました。それ以前の当院での病診連携の企画はというと、地域の開業医の先生方を対象にした約半年毎の「木戸病院症例検討会」（木戸病院の各診療科が持ち回りで担当）が開かれていました。「症例検討会」では、平日の夜７時頃から１回に２科の症例検討を行うため、１科あたり約１時間弱の発表形式となり、質問の時間も充分に取れませんでした。また当院の登録医の先生方に案内を発送しておりましたが、「症例検討会」の内容によっては、専門的過ぎて、参加される開業医の先生方も限られることもありました。当時の地域連携室を中心に「症例検討会」を企画しておりましたが、いつも実効性のある病診連携を進める上では、不十分な結果となっておりました。

当時の循環器内科医師３名で、循環器内科として、病診連携をどう進めるかを話し合いました。木戸病院の循環器内科の診療実態を伝え、勤務医と開業医が共通の認識を持つ中で、コミュニケーションを図り、出来れば循環器疾患での地域医療のレベルアップを図りたいとの思いで纏まりました。幸い、準備段階で、この会の目的に賛同して頂き、会の立ち上げに積極的に関わって頂いた先生方に世話人や監事になって頂くことが出来ました。

第１回は、平成17年９月15日（木）午後７時15分から、旧木戸病院健診センター２階講堂にて、「心房細動」をテーマに開催されました。木戸病院医師を含む20名の先生方が参加されました。私とすずき医院の鈴木正孝先生が司会者となり、５名の先生方から症例を提示して頂き、質問や意見を受けながら、治療方針を討論し、最後に開設して頂く方式で進めました。病院からの症例報告もさることながら、開業医の先生から提示された症例は質問・意見も多く、正に循環器疾患の診断・治療についてのコンセンサスを作っていく病診連携の会であるとの認識を深くしました。熱心な討論は、約2時間に及びました。最後に、会の体制（代表世話人、世話人、会計監事）を確認して終了しました。最初の会を企画しての印象は、今後の会の成功の鍵は、開業医の先生方からの症例提示であることでした。

２．特別講演の企画

世話人会では、会の終了後に、当日の会の感想を述べ合い、次回の企画を話し合いました。第5回までは、世話人が関心ある循環器疾患のテーマ演題を選択して運営されました（第２回：狭心症・心筋梗塞、第３回：心不全、第４回：閉塞性動脈硬化症、第５回：浮腫・静脈血栓）。会の運営が軌道に乗り始めた頃から、世話人会で、関心あるテーマについて、エキスパートの先生を講演にお呼びしてはどうかとの意見が出されました。会のテーマとして高血圧を取り上げたことがなかったため、私がその当時、興味深く読むことが出来た「よくある副作用症例に学ぶ降圧剤の使い方」（金芳堂）の著者である後藤敏和先生（現山形県立中央病院院長）を御呼びすることを提案しました。平成21年２月27日の厳冬でしたが、山形から講

演会に駆けつけて下さり、副作用を伴った高血圧症例を中心にサスペンス調に講演して頂きました。会の終了後は、雪のちらつく古町の割烹で先生を囲んで、会の有志で高血圧を肴に美味しいお酒を飲むことができました。

特別講演の希望は、その後も続きました。平成22年３月23日には、池主雅臣先生（現新潟大学医学部保健学科教授）に、「不整脈の治療」をテーマに講演頂き、開業医の先生方が苦手に思っている不整脈の診断・治療について、わかり易く説明して、頂きました。

最近では、平成25年５月30日に、会員の要望が強かった新潟大学大学院医歯学総合研究科・循環器内科学分野の新教授に着任された南野徹先生に、「老化と再生からみた生活習慣病」をテーマに特別講演をして頂きました。

世話人会では、多くの医師会の先生方にも参加して頂きたいとの願いで、新潟県医師会生涯教育講座の認定を受け、県と市の医師会報でも案内させていただきました。講演内容は今後の循環器分野の臨床において、新たな視点を示唆するものでした。参加者は、新教授の意気込みを充分に感じることが出来ました。

３．新たな試みと今後について

平成26年５月28日の第16回は、「脂質異常症」をテーマに開催されました。演題を募集する段階で、世話人から「新潟市中央区で開業されている前田和夫先生がＥＰＡ製剤を用いて動脈硬化の治療をして、その結果を学会や論文で発表をされているので、会に是非参加して頂いては」との情報がありました。今まで、症例報告として多くの開業医の先生方から発表を頂きましたが、論文として纏まった内容での発表は始めてでした。当日は、前田先生を含む４題のテーマ演題での発表がありました。当院からは、太刀川仁先生の「当院における高脂血症外来の現状」が報告されました。各演題を通して、「動脈硬化をどう評価するか」、「頸動脈エコーの役割は」、「配合剤の使い方」、「ＥＰＡ製剤の役割」などが活発に議論されました。最後に、私から当院で活用している、移動型ＰＳＧ検査を紹介させていただきました。

いつも会が終了した後に思う事ですが、会に参加された開業医の先生方と病院勤務医と間で顔も分かり、お互いに紹介し合える関係が構築されてきていると感じます。毎回の参加者は、15名前後ですが、常連の先生方が多く、会の運営について、積極的に提案されます。現在、世話人を６名に増やして、会の運営の活性化を図っております。また、新しく参加された開業の先生方には自己紹介をして頂き、早く皆の中に溶け込んで頂く様にしております。

振り返ってみますと、会を活発に継続していく鍵は、第一に、世話人会の中で、開業医の先生方から充分に意見を出して頂き、開業医の先生方が発表出来る様な内容にすること。第二に、病院勤務医から常に新たな情報発信が出来る症例報告をすることかと思います。さらに、会の形式を限定せず、時には聞きたい内容に相応しい講師を御呼びして、勉強会を開くなどです。今後も、世話人、会員の先生方の意見を重視しながら、病診連携が進む研究会を継続していきたいと考えております。

最後に、早い段階から会の発足に御努力頂いた、林直樹先生（林内科クリニック）、鈴木正孝先生（すずき医院）、滝沢恒世先生（たきざわクリニック松浜）に感謝致します。また共催者として、会の案内・運営・特別講演の企画等に、多大な御協力頂いているアステラス製薬株式会社に感謝致します。

さらに、会の宣伝、会の運営に御尽力頂いている木戸病院地域包括部のスタッフの皆様に感謝致します。

4．資料

① 東新潟循環器研究会の会則（**表１**）

② 東新潟循環器研究会のテーマ一覧（**表２**）

③ 現在の会の運営体制：

代表世話人：林直樹先生（林内科クリニック）

世　話　人：鈴木正孝先生（すずき医院）、細野浩之先生（ほその循環器内科クリニック）、渡辺弘先生（HALクリニック）、津田隆志、山口利夫先生（木戸病院・循環器内科）

会 計 監 事：滝沢恒世先生（たきざわクリニック松浜）

事　務　局：津田隆志

（表１）

東新潟循環器研究会　会則

第１条　名　称　本会は東新潟循環器研究会とする

第２条　目　的　東新潟地域での循環器疾患における病診連携の実効性を上げるため、開業医と病院勤務医のコミュニケーションを図り、循環器疾患での地域医療の発展と交流の活性化を目的とする

第３条　事　業　本会は第２条の目的を達するために次の事業を行う
ⅰ）研究会の開催（数回/年）
ⅱ）その他本会発展のために必要な事業

第４条　会　員　本会は本会の趣旨に賛同する医師をもって構成する

第５条　役　員　本会は次の役員をおく
代表世話人　　１　名
世　話　人　　若干名
会 計 幹 事　　１　名
役員の任期は２年間とする。但し再任を妨げない

第６条　運　営　世話人は会員より選出される
ⅰ）世話人は世話人会を組織し会の運営を行う
ⅱ）代表世話人は世話人より選出される
ⅲ）代表世話人は本会を代表して世話人会を統括し、必要な会議を招集する
ⅳ）世話人会は研究会開催時に開催し、最高の意思決定機関とする

第７条　収　入　本会の経費は会費、その他の収入を以ってあてる
ⅰ）会費は年１千円とする

第８条　会　計　会計年度は４月１日から翌年の３月31日とする
本会の収支決算は、会計幹事の監査を経て事務局より総会で報告する

第９条　共　催　本会は、東新潟循環器研究会とアステラス製薬会社との共催とする

第10条　事務局　事務局は会員名簿の整理、会費の管理等、本会の運営に必要な事務を行う
本会の事務局は下記に置く
〒950-0891　新潟県新潟市上木戸５－２－１
新潟医療生活協同組合　木戸病院　循環器内科

東新潟循環器研究会；津田　隆志
ＴＥＬ；025（273）2521

第11条　　その他　　会則の偏光は世話人会の議を経て、総会の承認を受けるものとする。
本規約は、平成22年10月27日に制定し即日施行する

（表２）

東日本循環器研究会（主なテーマ）

第１回	2005.９.15	心房細動
第２回	2006.３.14	狭心症・心筋梗塞
第３回	2006.10.24	心不全
第４回	2007.５.22	閉塞性動脈硬化症
第５回	2008.７.15	浮腫・静脈血栓
第６回	2009.２.27	降圧薬の使い方（後藤敏和先生）
第７回	2009.９.29	異型狭心症・急性冠症候群
第８回	2010.３.23	不整脈の治療（池主雅臣先生）
第９回	2010.10.27	注意したい心電図変化
第10回	2011.７.13	睡眠時無呼吸症候群と循環器疾患
第11回	2011.11.９	今年経験した興味ある循環器疾患
第12回	2012.５.23	新規循環器系薬剤
第13回	2012.11.14	診断・治療に困った症例
第14回	2013.５.30	南野教授ご講演
第15回	2013.12.27	高血圧症
第16回	2014.５.28	脂質異常症

Ⅳ. 2013年度臨床指標・診療実績

部所	行　為	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合　計
手術室	外科	27	40	25	41	25	33	32	32	33	24	31	30	373
	整形外科	21	30	21	29	15	19	13	28	26	27	27	24	280
	産婦人科	8	14	12	11	12	11	12	13	11	8	11	14	137
	耳鼻咽喉科	0	1	4	4	3	2	3	2	1	0	0	1	21
	眼科	22	37	31	39	22	35	46	36	25	31	22	33	379
	皮膚科	5	4	4	1	1	3	4	4	4	4	3	7	44
	内科	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	2
	透析	2	5	1	1	1	1	3	4	4	3	4	2	31
	歯科　口腔外科	0	0	1	2	2	1	1	1	0	0	0	0	8
	合　計	85	131	99	128	81	106	114	120	104	97	99	111	1,275
心カテ室	心臓カテーテル	18	18	12	18	19	12	15	17	12	13	15	13	182
	腹部アンギオ	5	0	4	0	1	2	4	6	7	8	0	2	39
	ペースメーカー	1	2	1	2	1	1	6	5	2	4	6	5	36
	合　計	18	20	17	20	21	15	25	28	21	25	21	20	257
内視鏡	胃カメラ	500	532	489	569	491	506	495	517	527	542	503	469	6,140
	大腸カメラ	152	160	164	194	166	150	170	169	145	141	132	145	1,888
	ＥＲＣＰ	7	15	15	8	7	17	7	15	11	15	11	17	145
	気管支内視鏡	4	1	3	3	0	0	0	3	0	1	2	1	18
	緊急（止血術）	9	8	7	5	7	3	3	6	5	3	3	2	61
	合　計	672	716	678	779	671	676	675	710	688	702	651	634	8,252
放射線科	ＣＴ	563	613	559	665	611	534	588	558	584	554	524	571	6,924
	ＲＩ	33	47	42	66	42	40	50	44	34	45	42	53	538
	ＭＲＩ	283	295	286	294	268	259	265	258	276	274	266	273	3,297
	骨密度	149	141	128	122	118	89	127	118	117	118	145	149	1521
	合　計	1028	1,096	1015	1147	1039	922	1030	978	1011	991	977	1046	12,280
検査室	検体検査	8,405	8,817	8,384	9,192	8,329	8,215	8,555	8,130	7,905	7,689	7,723	7,867	99,211
	生理検査	1,093	1,141	1,062	1,327	1,059	1,060	1,191	1,055	1,073	1,265	1,089	1,205	13,620
	細菌検査	1,486	1,651	1,251	1,719	1,568	1,597	1,631	1,449	1,507	1,913	2,175	2,157	20,104
	合　計	10,984	11,609	10,697	12,238	10,956	10,872	11,377	10,634	10,485	10,867	10,987	11,229	132,935
栄養科	外来栄養指導	227	228	212	222	217	174	221	173	215	189	177	192	2,447
	入院栄養指導	54	28	53	52	32	42	56	61	46	37	47	46	554
	石山診療所	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	0	0	4
	合　計	281	256	265	274	249	216	278	235	262	227	224	238	3,005
病理	剖検	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	組織診	212	240	2299	253	220	228	215	250	212	224	197	220	4,770
	細砲診	348	339	405	478	364	478	525	438	405	343	356	276	4,755
	合　計	561	579	2704	731	584	706	740	688	617	567	553	496	9,526
訪問リハビリ（回数）		352	352	342	352	316	290	301	252	264	270	296	314	3,701
臨床病理検討会		0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1

【産婦人科】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
自然分娩	8	12	11	17	12	9	10	19	10	7	9	15	139
吸引分娩	0	3	0	5	1	6	2	1	2	0	2	1	23
帝王切開	1	6	3	3	5	4	6	2	2	1	1	4	38
分娩合計	9	21	14	25	18	19	18	22	14	8	12	20	200

【服薬指導状況】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	146	144	140	139	150	131	144	116	120	148	152	162	1,692
小児科	0	6	2	1	1	3	1	1	0	1	1	0	17
外科	39	43	41	45	41	41	64	47	36	26	26	35	484
皮膚科	3	0	7	9	13	7	3	4	4	3	4	1	58
歯科口腔外科	0	0	0	0	0	0	3	3	0	0	1	2	9
産婦人科	13	21	16	21	21	15	21	28	16	12	19	22	225
整形外科	117	142	131	139	112	100	95	122	151	146	158	129	1,542
耳鼻科	6	2	7	4	7	4	4	4	5	9	5	10	67
眼科	15	30	26	33	20	28	37	28	20	29	14	29	309
神経内科	12	5	1	6	26	25	17	4	6	5	0	17	124
合計	351	393	371	397	391	354	389	357	358	379	380	407	4,527

【健診センター】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
宿泊ドック	3	0	1	2	2	2	0	1	1	0	0	0	12
日帰りドック	115	197	270	337	281	253	372	346	293	252	240	216	3,172
合計	118	197	271	339	283	255	372	347	294	252	240	216	3,184

【褥瘡推定発生率】 調査日に褥瘡を保有する患者－入院時にすでに褥瘡保有が記載されていた患者÷調査日の入院患者×100（%）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1度以上	8.8%	7.8%	8.0%	5.8%	3.1%	5.7%	7.9%	5.8%	5.6%	5.3%	6.2%	5.8%
2度以上	8.0%	5.8%	6.9%	4.8%	3.1%	5.0%	6.4%	4.6%	5.3%	4.9%	5.9%	5.4%

【病院褥瘡有病率】 調査日に褥瘡を保有する患者÷調査日の入院患者数×100（%）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1度以上	18.8%	13.6%	12.8%	10.1%	9.5%	10.1%	13.2%	12.0%	9.2%	8.1%	10.7%	10.5%
2度以上	16.9%	11.3%	10.9%	7.9%	8.7%	9.4%	11.3%	10.5%	8.8%	7.8%	10.3%	10.1%

【2013年度外来患者数】

初診患者数

外　　来	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件　　数	1,514	1,593	1,401	1,674	1,729	1,406	1,677	1,670	1,663	1,387	1,404	1,423	18,541
1日平均	65.8	69.3	63.7	69.8	72.0	67.0	69.9	79.5	75.6	66.0	66.9	64.7	−

延患者数

外　　来	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
一般内科	136	135	137	153	125	128	147	121	133	122	129	109	1,575
腎臓内科	2,841	2,911	2,613	2,934	2,856	2,659	2,907	3,058	2,988	2,644	2,509	2,630	33,550
循環器内科	1,260	1,325	1,244	1,391	1,296	1,211	1,392	1,323	1,353	1,320	1,214	1,335	15,664
消化器内科	1,262	1,274	1,199	1,386	1,402	1,154	1,184	1,260	1,181	1,186	1,124	1,190	14,802
糖尿病内科	1,267	1,207	1,210	1,350	1,271	1,170	1,397	1,224	1,352	1,267	1,235	1,302	15,252
呼吸器内科	498	491	466	529	455	492	514	541	495	439	379	437	5,736
内科その他	780	875	867	729	710	776	708	643	793	731	686	738	9,036
内　　科	8,044	8,218	7,736	8,472	8,115	7,590	8,249	8,170	8,295	7,709	7,276	7,741	95,615
小児科	647	691	561	651	617	581	775	863	793	576	799	765	8,319
皮膚科	866	961	929	1,063	1,150	918	1,010	854	882	843	785	900	11,161
外　　科	664	652	583	707	668	651	702	646	659	638	608	638	7,816
整　　形	1,141	1,297	1,126	1,430	1,347	1,187	1,338	1,217	1,377	1,159	1,096	1,284	14,999
産　　科	755	818	818	827	722	817	812	751	712	672	680	730	9,114
耳鼻科	909	865	786	829	868	692	837	706	768	693	706	722	9,381
神経内科	474	488	429	499	487	459	518	513	483	448	366	501	5,665
精　　神	26	19	30	24	23	38	18	27	22	12	19	22	280
泌尿器	438	454	408	443	443	416	508	437	377	422	406	409	5,161
眼　　科	912	1,002	941	974	871	896	991	865	966	857	741	882	10,898
歯　　科	1,245	1,219	1,116	1,259	1,079	1,197	1,280	1,117	1,272	1,164	1,200	1,239	14,387
合　　計	16,121	16,684	15,463	17,178	16,390	15,442	17,038	16,166	16,606	15,193	14,682	15,833	192,796
診療日数	23	23	22	24	24	21	24	21	22	21	21	22	268

【2013年度入院患者数】

新入院患者数

入　　院	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件　　数	421	492	445	506	460	460	455	471	421	453	398	440	5,422

延患者数

入　　院	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
一般内科	4	4	2	5	6	6	4	2	0	0	4	2	39
腎臓内科	1,162	1,250	1,243	1,189	1,029	1,095	1,223	966	1,107	1,308	1,059	1,136	13,767
循環器内科	879	948	779	775	697	907	864	906	1,145	1,167	973	1,084	11,124
消化器内科	1,340	1,718	1,550	1,406	1,400	1,807	1,670	1,759	1,669	1,710	1,334	1,755	19,118
糖尿病内科	684	450	748	849	726	744	737	616	631	556	786	921	8,448
呼吸器内科	978	944	950	829	870	900	685	703	755	737	817	854	10,022
小児科	93	155	102	64	126	150	126	87	96	52	91	99	1,241
皮膚科	110	70	113	157	163	88	38	67	109	94	94	27	1,130
外科	1,053	1,054	967	1,037	895	1,069	1,003	924	818	827	844	1,135	11,626
整形	888	1,029	1,089	1,195	930	809	841	921	1,137	1,213	1,264	1,063	12,379
産科	263	421	378	507	471	429	394	422	270	280	452	437	4,724
耳鼻科	102	75	120	165	145	114	132	147	112	149	86	111	1,458
神経内科	347	180	169	375	524	598	479	359	302	222	211	279	4,045
精神													0
泌尿器													0
眼科	63	129	92	132	74	105	126	88	61	104	43	106	1,123
歯科	36	5	20	37	26	5	43	42	7	13	8	64	306
合　　計	8,002	8,432	8,322	8,722	8,082	8,826	8,365	8,009	8,219	8,432	8,066	9,073	100,550
診療日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365

Ⅴ．2013年度活動報告・研究業績

１．診療部

【一般内科】

１．活動報告

２．研究業績

論文・著書

１．Chinushi M, Iijima K, Suzuki K, Furushima H, Saitoh O, Furuta Y, Aizawa Y, Iwafuchi M. Blood pressure and autonomic responses to electrical stimulation of therenal arterial nerves before and after ablation of the renal artery.
Hypertension 61：450-456, 2013.

２．Hara N, Saito H, Takahashi K, Takeda M.
Lower urinary tract symptoms in patients with Niigata Minamata disease: a case-control study 50 yearsafter methyl mercury pollution.
International Journal of Urology 20：610-615, 2013.

学会発表

１．斎藤　恒
水俣病の医学的な問題
新潟水俣病研究会（2013／４／18, 新潟）

２．斎藤　恒
新潟水俣病の半世紀を振り返って
第２回環境被害に関する国際フォーラム（2013／９／５, 熊本）

３．斎藤　恒
旧昭和電工鹿瀬工場で何が行われていたか
新潟水俣病研究会（2013／10／20, 新潟）

４．斎藤　恒
新潟水俣病の半世紀を振り返って
第２回環境問題に関する国際フォーラム「水俣病と向き合った医師たち～今とこれから」
（2013／11／16, 大坂）

５．斎藤　恒
新潟水俣病患者の長期観察例の報告
第９回水俣病事件研究交流集会 （2014／１／11－12, 熊本）

講演

その他

【循環器内科】

１．活動報告

２．研究業績

論文・著書

学会発表

１．津田隆志
　治療性抵抗性高血圧例への対応：最近の実験例から報告
　第54回新潟高血圧談話会（2013／11／15，新潟）

２．山口利夫
　１枚の心電図から何を考えるか
　第14回コロキウム虚血性心疾患 in 新潟（2013／９／７，新潟）

講演

その他

【呼吸器内科】

1．活動報告

2．研究業績

論文・著書

学会発表

1．成田淳一
　関節リウマチに合併した肺病変 ― 薬剤性肺障害を中心として ―
　第282回チェストカンファレンス例会（2013／９／25，新潟）

2．河辺昌哲
　肺癌化学療法の悪心･嘔吐に対するPalonosetron，Aprepitant，Dexamethasone ３剤併用制吐療法の有効性と安全性
　新潟地域がん連携セミナー（2013／11／１，新潟）

講演

1．成田淳一
　肺炎の最近の話題 ― 医療・介護関連肺炎と誤嚥性肺炎を中心として ―
　第33回健康まつり（2013／10／７，新潟）

その他

◇成田淳一
- 第６回東新潟NHCAP懇話会、幹事会（2013／11／14，新潟）
- 新潟COPDリンク幹事会（2013／10／15，新潟）
- 新潟チェストカンファレンス拡大幹事会（2014／２／22，新潟）
- 新潟喘息治療研究幹事会（2014／３／８，新潟）

【糖尿病内科・内分泌内科】

１．活動報告

２．研究業績

論文・著書

学会発表

１．津田晶子，濱　ひとみ，荻原智子
長期間インスリン治療を継続中の２型糖尿病に対するシタグリプチン併用効果の検討
第56回日本糖尿病学会年次学術集大会（2013／５／18，熊本）

２．濱　ひとみ，津田晶子，田邊繁世，涌井陽子，荻原智子，太田隆志，矢田昌吾
２型糖尿病透析症例でのインスリン療法からDPP４阻害薬、グリニド薬併用療法への切り替え効果～CGMSを用いての検討
第13回日本先進糖尿病治療研究会（2013／11／30，東京）

３．津田晶子，涌井陽子，荻原智子，原　昇
胎盤性性腺刺激ホルモン（HCG）と遺伝子組換え型ヒト卵胞刺激ホルモン（ｒ-FSH）の併用療法にて２児を得た低ゴナドトロピン性男子性腺機能低下症の１例
第98回新潟内分泌代謝同好会（2013／12／７，新潟）

講演

その他

【腎臓内科】

1．活動報告

2．研究業績

論文・著書

学会発表

1．津田晶子，濱　ひとみ，荻原智子
　長期間インスリン治療を継続中の２型糖尿病に対するシタグリプチン併用効果の検討
　第56回日本糖尿病学会年次学術集大会（2013／５／18，熊本）

2．濱　ひとみ，津田晶子，田邊繁世，涌井陽子，荻原智子，太田隆志，矢田昌吾
　２型糖尿病透析症例でのインスリン療法からDPP４阻害薬、グリニド薬併用療法への切り替え効果
　～CGMSを用いての検討
　第13回日本先進糖尿病治療研究会（2013／11／30，東京）

講演

その他

【消化器内科】

1．活動報告

【外科】活動報告を参照

2．研究業績

論文・著書

学会発表

1．摺木陽久

落下胃石による腸閉塞の１例

第132回日本内科学会信越地方会（2013／９／７－９，新潟）

講演

その他

【神経内科】

1．活動報告

2．研究業績

論文・著書

学会発表

講演

その他

【小児科】

1．活動報告

2．研究業績

論文・著書

1．内山　聖，樋浦　誠
小児慢性特定疾患の管理・解析・情報に対する研究
平成24年度分総括分担研究報告書　p49-62，2013

学会発表

1．樋浦　誠，泉田亮平，馬場悠美，内山　聖，大石智洋，鷲尾英明
胃腸炎小児における「イオンバランスおかゆ」の効果について
第215回小児科学会新潟地方会（2013／12／14，新潟）

講演

その他

【産婦人科】

1．活動報告

2．研究業績

論文・著書

学会発表

講演

その他

【外科】

1．活動報告

― 当院における胃癌の診断と治療の現状 ―

消化器科（外科[1)]、消化器内科[2)]）
山田　明、阿部要一、横山義信、渡邊智子[1)]、佐藤秀一、摺木陽久、横山　恒[2)]

Ⅰ．はじめに

わが国における死亡原因の第１位は昭和56年よりがんが占めており、現在に至っている。2008年の罹患・死亡のデータに基づけば男性、女性ともに、おおよそ２人に１人が一生のうちにがんと診断され、2012年の死亡データに基づけば、男性ではおおよそ４人に１人、女性ではおおよそ６人に１人ががんで死亡するとされている。政府はがん対策の取り組みを昭和59年より行ってきているが、平成18年にはがん対策基本法が制定され、その一つとしてがんの予防と早期発見の推進があげられた。さらに平成24年にはがん対策推進基本計画が閣議決定され、「がん患者を含めた国民が、がんを知り、がんと向き合い、がんに負けることのない社会」の実現を目指すものとしている。

がんの統計 '13よりみると、1960年以降がんの死亡率は男女ともに増加している中で、胃がんの死亡率は男女ともに減少の傾向を示している。1980年以降、がんの罹患率は男女ともに増加している中で、胃癌の罹患率は男女ともに減少している。[1)]

今回、われわれが治療を行う機会の多い胃がんをとりあげ、当院での過去５年間の検診と一般診療の胃がん症例の推移、診断と治療の状況について報告する。

Ⅱ．胃がん検診の実態

新潟県の胃がんの75才未満年齢調整死亡率は、男性では20.2と全国平均の15.5に比して高く、女性では5.9と全国平均と同率である。

新潟市においては、胃がん検診のあり方が見直され、平成14年より内視鏡による検診制度が導入された。胃がん検診10年の歩みが本年６月に発刊され、内視鏡検診の有用性が示された。新潟県と新潟市での胃がん罹患数と死亡数の比率をみると、新潟市の検診の受診率は平成22年に14.7％に過ぎず検診の効果が明確ではないとしている。しかしながら平成21年度ではその比率が3.755であり、胃癌の死亡率が26.6％と著しく低い死亡率であったことは事実であり、新潟市民全体に対する死亡率減少効果に寄与するものと考えられる。[2)]

当院の胃がん検診目的の日帰りドック、特定健診・市がん検診、協会けんぽ健診を合わせた（以後、検診と略す）受検者数をみると2009年度より2013年度の総計は直接X線によるもの13365件（年間平均2673件）と内視鏡検査が12656件（年間平均2531件）で、X線検査受検者数が多い傾向であった。またこれに一般診療を加えた内視鏡総件数を見てみると合計27425件（年平均5485件）であり、内視鏡の年次別件数は徐々に増加している（**図１**）。

検診の方法と胃がんの発見数を比較すると、直接X線による発見数は15例であり発見率は0.112％であった。そのうち早期がんが５例、進行がん10例であり、早期がん率は33.3％であった。一方、内視鏡検査発見数は99例で発見率は0.782％と直接X線の発見率を大きく上回った（**表１**）。早期がん数は85例、進行がん14例であり、早期がん比率は85.9％と早期がんが圧倒的多数を占め、検診における内視鏡検査の有用性が示唆された（**図２**）。また、この検査に付随した食道がん発見数をみると直接X線群では２例

（発見率0.015％）のみが、内視鏡検査においては14例（発見率0.111％）と７倍の内視鏡による発見がなされている。

以上の当院の健診センターにおける胃がん検診では、直接X線検査より内視鏡検査を行うことが胃がん早期発見には有用であり、胃がん検診には内視鏡検査が推奨される結果であった。

Ⅲ．胃がんの推移

当院内視鏡室での上部消化管内視鏡検査件数は、前述したように年々増加の一途をたどり、2009年度では4973件であったものが2013年度には6140件と1000件以上の伸びをみせて過去最多となった。この検査件数は検診検査件数に加えて、有症状者や経時的観察目的での一般受診者検査件数の総数であり、検診件数が約46％を占めていた。有症状者の場合は胃の検査に内視鏡検査を第１選択としているが、一般受診者検査件数は過去５年間に14767件であり年々検査件数が増加している。この中で胃がん診断を受けた症例数（病理組織学的診断による）は578症例であり、その診断率は3.24％と非常に高い結果であった（**表１**）。これは有症状者や胃がんの診断を受けた紹介患者が含まれるものに起因すると考えられる。

検診における内視鏡検査の有用性は非常に高いものと評価されるが、現在の内視鏡施行医数は限られている。症状をもった一般受診者の内視鏡検査を優先させる必要があり、午前中に行われる上部消化管件数特に検診内視鏡件数を増加させるには検査医の増員が必至となる。

Ⅳ．胃がんの進行度、治療

胃がんの治療においては、われわれは日本胃癌学会の胃癌治療ガイドライン[3]に準じて行うよう心掛けている。転移のない早期がんに対しては内視鏡による内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）が普及しており、当院においてはガイドライン（粘膜癌、分化型癌、２㎝以下、潰瘍合併なし）の適応をやや拡大し実施している。内視鏡治療は患者に与える侵襲が少なく、症例によっては非常に有用である。手術においては、症例に応じて縮小手術や定型手術を行っている。また進行度の高い症例には、胃がんの伸展、転移状況に応じて手術または化学療法を選択して実施している。

2013年度に限定して保険診療での内視鏡検査件数は胃がんの診断を受けた133例についてみると、早期がん症例が93例、69.9％と進行癌より多数を占めた。その内訳は、他病院への紹介例が24例で当院での治療症例は109例82％であった。その治療はESDを中心とした内視鏡治療が早期がんの59例に行われていた。また手術は早期がん８例、進行がん７例、計15例に行われた。また高度進行がん（ステージⅣ）症例に対しての化学療法が９例に行われた。ターミナル胃がん、診断時に重篤な病気をもった症例や治療拒否など無治療となったものは早期がん11例、進行がん15例の計26例であった（**図３**）。

年次別に胃がん症例に対する内視鏡と手術治療数をみると内視鏡治療数は過去5年間に241件、年平均48件、手術は135件、年平均27件で大幅な増減は認めなかった（**図４**）。前述の2013年度の治療件数の相違は前年度の診断例が含まれること、また他院での組織診断がなされた症例が含まれた結果である。

参考文献
[1] がんの統計 '13、公益財団法人　がん研究振興財団
[2] 新潟市胃がん内視鏡検診10年のあゆみ、一般社団法人新潟志医師会
[3] 胃癌治療ガイドライン、医師用2014年５月改定第４版、日本胃癌学会編

表１．胃がん症例の内訳

年　度	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	計
直接Ｘ線・検診件数	2661	2878	1618	3051	3157	13365
胃がん総数	1	2	4	7	1	15
早期がん	1	1	2	5	1	10
進行がん	0	1	2	2	0	5
発見率％	0.038	0.069	0.247	0.229	0.032	0.112
内視鏡・検診件数	2503	2355	2591	2520	2687	12656
胃がん総数	25	12	21	22	19	99
早期がん	21	7	19	20	18	85
進行がん	4	5	2	2	1	14
発見率％	1.119	0.51	0.81	0.873	0.707	0.806
一般診療件数	2470	2710	2795	3341	3453	14767
胃がん数	71	86	100	108	114	479
発見率％	2.87	3.17	3.57	3.23	3.3	3.24

図１．内視鏡総件数と検診の内訳

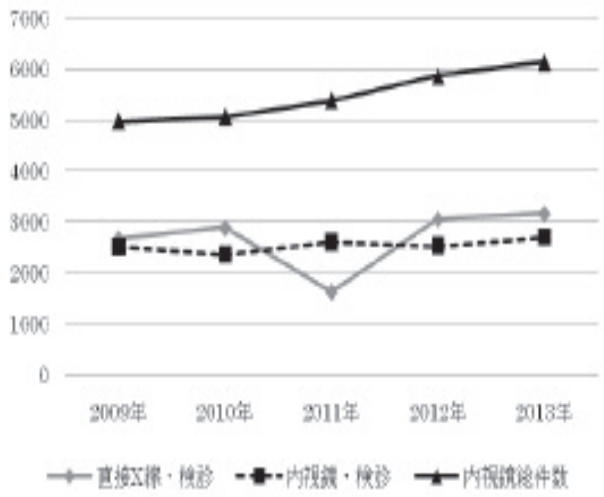


図２．検診胃がんの発見数

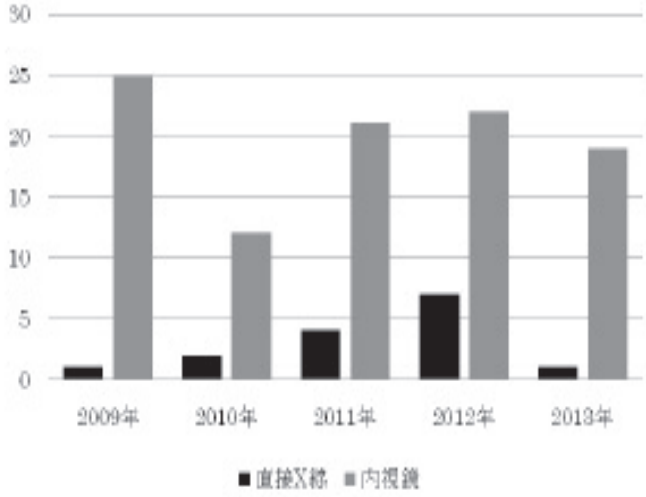


表３．2013年度胃がん診断例数と治療

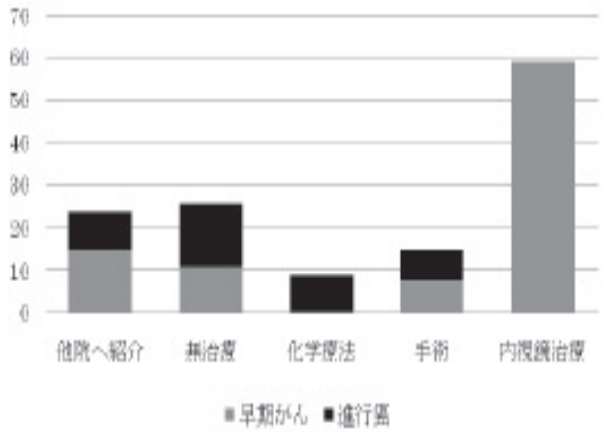


表４．胃がんの内視鏡治療と手術件数

Ⅴ．まとめ

本院における過去５年間の胃がん検診、胃がん診断と治療の現状を報告した。検診における胃がんの早期発見のためには、内視鏡検査が有用である。有症状者または有所見者に対する内視鏡検査でも2013年度では早期胃がんの頻度が69.9％と高く、一般診療における内視鏡検査を実施する意義は高い結果となった。治療においては早期胃がんの発見の増加に伴い内視鏡治療の増加が予想される。また外科手術においては、早期がんに対しての腹腔鏡手術などの低侵襲手術を積極的にとりいれて、患者に優しい外科となるように心がけたい。

２．研究業績

論文・著書

学会発表

１．横山義信
　リハビリにて在宅復帰が可能であった末期大腸癌患者の１例
　第18回日本緩和医療学会学術大会（2013／６／22，飛騨）

２．渡邊智子，山田　明，横山義信，阿部要一，渡邉佳緒里，岩渕三弥
　胃癌穿孔による汎発性腹膜炎の２症例の治療経験
　第99回新潟消化器病研究会（2014／２／22，新潟）

３．山田　明
　FOLFOX４+Pmab療法が奏功した直腸癌の１切除例
　Vectibix Expert Meeting in 新潟～症例をベースに考える～（2014／３／18，新潟)

講演

１．山田　明
　人工的水分・栄養の投与：胃ろう造設の適応は？
　第33回健康まつり・健康講演会（2013／10／６，新潟）

その他

【整形外科】

1．活動報告

2．研究業績

論文・著書

1．小林信也
　脊椎圧迫骨折に対する治療検討
　日本関節病学会誌 31：360，2013.

学会発表

1．所澤　徹
　若年性線維筋痛症治療の経験－早期治療が奏功した２例について
　日本線維筋痛症学会第５回学術集会（2013／10／５－６，横浜）

2．小林信也
　亜急性期病床の運用に対する検討
　第63回日本病院学会（2013／６／27－28，新潟）

3．小林信也
　RA頚椎における術後経過の検討
　第41回日本関節病学会（2013／11／１－３，愛知）

講演

その他

【皮膚科】

1．活動報告

診療体制

2013年４月１日付けで鹿児島大学から河井一浩が着任し、非常勤医師の河井伸江が退職した。常勤医師が３人になったため、新潟大学からの非常勤医師の派遣はなくなったが、11月から非常勤医師１人が短時間常勤していただけることになった。12月には長年にわたり当科における診療・研究・教育を担ってこられた猪股成美先生が退職されることになり（木戸クリニックの診療は継続)、2014年１月から常勤医師２人、短時間常勤医師１人（日本皮膚科学会認定皮膚科専門医３人）の体制で診療している。

外来診療

平日および第２･第４土曜の午前に２診体制で診療している。2013年度の外来患者数は延べ11，161人（１日平均41.6人)であった(他科入院中の患者を除く)。エビデンスに基づいた診療を心がけており、コモンディジーズについてはガイドラインに沿った診療を行っている。正確な診断のために、皮膚生検を積極的に施行しており、2013年度の病理検査数は190検体であった。2013年度には、新規診断機器として皮膚エコーを導入し、自由診療としてグリコール酸によるケミカルピーリングを開始した。

入院診療

2013年度の入院患者数は74人（延べ入院日数1130日、１日平均3.1人）で、平均在院日数は17.3日であった。疾患としては、帯状疱疹と蜂窩織炎が多く、その他、感染を伴う褥瘡、自己免疫性水疱症、薬疹・中毒疹、蕁麻疹、アトピー性皮膚炎、自家感作性皮膚炎、紅皮症、血管炎などであった。他の診療所・病院からの紹介患者は積極的に受け入れたが、当院には設置されていない陰圧室や集中治療室への入室が必要な患者は新潟市民病院や新潟大学に紹介した。他科入院中の患者に対してはコンサルテーションによる診察に加えて、佐藤信輔が月２回褥瘡回診を行っている。

手術

2013年度の皮膚生検を含む手術件数は190件であった(創傷処理および皮膚切開術を除く)。このうち、手術室での手術件数は49件であったが、2014年度からは手術枠を確保し、生検・創傷処理・皮膚切開術以外の予定手術は手術室で行う方針である。診療体制上、原則として執刀医１人での局麻手術に限定されるため、単純縫縮が可能な皮膚・皮下腫瘍の日帰り手術が中心であり、全麻手術・他科との共同手術・植皮や複雑な皮弁による再建が必要な場合、広範囲切除やセンチネルリンパ節生検・リンパ節郭清が必要な悪性腫瘍は新潟県立がんセンター新潟病院、新潟市民病院形成外科および新潟大学に依頼した。

関連施設

月曜・火曜・水曜・金曜（１月から月曜・火曜・金曜）の午後、木曜および第１・第３・第５土曜の午前に石山診療所で外来診療を行っている。また、介護老人保健施設ほほえみの里きど（週１回)、指定介護老人福祉施設／特別養護老人ホームあしぬま荘（月１回)、桑名病院（月２回）の診療も行っている。

2．研究業績

論文・著書

邦文著書

1．今泉芳孝，渡邉俊樹，宇都宮　與，河井一浩，天野正宏，大島孝一
ALTの診療実態・指針の分析による診療体制の整備
厚生労働科学研究費補助金　がん臨床研究事業（H23－がん臨床－一般－022）ALTの診療実態･指針の分析による診療体制の整備
平成25年度　総括・分担研究報告書　p31-43，2014.

英文総説

1．Tsukasaki K, Imaizumi Y, Tokura Y, Oshima K, Kawai K, Utsunomiya A, Amano M, Watanabe T, Nakamura S, Iwatsuki K, Kamihira S, Yamaguchi K, Shimoyama M.
Meeting report on the possible proposal of an extra-nodal primary cutaneous variant in the lymphoma type of adult T-cell leukemia-lymphoma.
J Dermatol 41：26-28，2014.

邦文総説

1．河井一浩
皮膚の悪性リンパ腫：取扱い規約と診療ガイドライン
日本臨床　71増４：755-757，2013.

2．河井一浩
皮膚の悪性リンパ腫：病期分類と予後
日本臨床　71増４：758-762，2013.

英文原著

1．Kloepper JE, Kawai K, Bertolini M, Kanekura T, Paus R.
Loss of $\gamma\delta$ T cells results in hair cycling defects.
J Invest Dermatol 133：1666-1669，2013.

2．Matsushita S, Hatanaka M, Katsue H, Kawai K, Kanekura T.
Possible effectiveness of lymph node dissection in patients with extramammary Paget's disease.
J Dermatol 40： 574-575，2013.

3．Sakanoue M, Takeda K, Kawai K, Kanekura T.
Granulocyte and monocyte adsorption apheresis for refractory skin diseases due to activated neutrophils, psoriasis, and associated arthropathy.
Ther Apher Dial 17：477-483，2013.

4．Yoshifuku A, Higashi Y, Matsushita S, Kawai K, Kanekura T.
Transdermal nicotine patches for eosinophilic pustular folliculitis.
J Dermatol 40：711-714，2013.

5．Tamai M, Matsushita S, Miyanohara H, Imuta N, Ikeda R, Kawai K, Nishi J, Sakamoto A, Shigihara T, Kanekura T.
Antimicrobial effect of an ultrasonic levitation washer disinfector with silver electrolysis and ozone oxidation on methicillin-resistant Staphylococcus aureus.
J Dermatol 40：1020-1026, 2013.

6．Ibusuki A, Kawai K, Yoshida S, Uchida Y, Nitahara-Takeuchi A, Kuroki K, Kajikawa M, Ose T, Maenaka K, Kasahara M, Kanekura T.
NKG2D triggers cytotoxicity in murine epidermal $\gamma\delta$ T cells via PI3K-dependent, Syk/ZAP70-independent signaling pathway.
J Invest Dermatol 134：396-404, 2014.

英文症例報告

1．Uchida Y, Kawai K, Kubo H, Takeda K, Shimokawa M, Yoshii N, Kanekura T.
Blastic plasmacytoid dendritic cell neoplasm in a human T-cell lymphotropic virus type I（HTLV-1）carrier：a coincidental association?
Eur J Dermatol 23： 250-251, 2013.

2．Sakanoue M, Matsushita S, Kawai K, Kanekura T.
Microcystic adnexal carcinoma arising in a nevus sebaceous.
Indian J Dermatol 58：247, 2013.

3．Sakanoue M, Kawai K, Kanekura T.
Nevus lipomatosus cutaneous superficialis associated with trichofolliculoma on the lower leg.
Indian J Dermatol 58： 330, 2013.

4．Yamasuji Y, Higashi Y, Sakanoue M, Katuse H, Kawai K, Arai N, Kanekura T.
A case of anaphylaxis caused by polyethylene glycol analogs.
Contact Dermatitis 69：183-185, 2013.

5．Katsue H, Matsushita S, Sakanoue M, Kawai K, Kanekura T.
Case of giant sclerosing epithelioid fibrosarcoma with ossification.
J Dermatol 40：667-668, 2013.

6．Higashi Y, Shimokawa M, Kawai K, Kanekura T.
Granulocyte and monocyte absorption apheresis for Behçet's disease in a pregnant women.
J Dermatol 40：1042-1044, 2013.

7．Sakanoue M, Matsushita S, Kawai K, Kanekura T.
A case of Kimura's disease as giant pedunculated tumors.
Indian J Dermatol 59：105, 2014.

邦文症例報告

1．濱　菜摘，松山麻子，田中英一郎，株本武範，伊藤雅章，後藤一美，河井一浩
間擦部主体の多形皮膚萎縮を呈し，病巣内に有棘細胞癌を合併した菌状息肉症の１例
臨床皮膚科　67：431-435, 2013.

学会発表

国際学会発表

1．Uchida Y，Kawai K，Ibusuki A，Kanekura T.
Hippo pathway mediates the inhibitory signal on epidermal γδ T cells.
International Investigative Dermatology 2013（2013／5／8－11，Edinburgh）

国内学会発表

1．松下茂人，青木恵美，畠中美帆，勝江浩未，河井一浩，金蔵拓郎
進行期乳房外Paget病におけるセンチネルリンパ節転移陽性例の検討 ― 所属リンパ節廓清の適応の検証 ―
第56回日本形成外科学会総会・学術集会（2013／4／3－5，東京）

2．青木恵美，松下茂人，河井一浩，金蔵拓郎
乳房外Paget病の真皮内浸潤パターンと予後との関連
第56回日本形成外科学会総会・学術集会（2013／4／3－5，東京）

3．内田洋平，吉福明日香，川上延代，西馬場理恵，勝江浩未，青木恵美，坂ノ上正直，畠中美帆，馬場淳徳，馬場直子，多田浩一，米良健太郎，久保秀通，武田浩一郎，東　裕子，松下茂人，河井一浩，　金蔵拓郎
2012年鹿児島大学病院皮膚科外来，紹介患者，パッチテスト統計
第165回日本皮膚科学会鹿児島地方会（2013／4／14，鹿児島）

4．久保秀通，猿渡　浩，米良健太郎，多田浩一，坂ノ上正直，青木恵美，勝江浩未，下川充芳，馬場淳徳，久留光博，山筋好子，毛利翔悟，江口裕可，木下和久，地村　望，川上延代，吉福明日，内田洋平，武田浩一郎，東　裕子，松下茂人，河井一浩，金蔵拓郎
2012年鹿児島大学病院皮膚科入院患者統計
第165回日本皮膚科学会鹿児島地方会（2013／4／14，鹿児島）

5．久保秀通，猿渡　浩，米良健太郎，多田浩一，坂ノ上正直，青木恵美，勝江浩未，下川充芳，馬場淳徳，久留光博，山筋好子，毛利翔悟，江口裕可，木下和久，地村　望，鶴田祐介，内田洋平，武田浩一郎，東　裕子，松下茂人，河井一浩，金蔵拓郎
2012年鹿児島大学病院皮膚科死亡患者統計
第165回日本皮膚科学会鹿児島地方会（2013／4／14，鹿児島）

6．松下茂人，久保秀通，猿渡　浩，米良健太郎，多田浩一，坂ノ上正直，青木恵美，勝江浩未，下川充芳，馬場淳徳，久留光博，山筋好子，西馬場理恵，川上延代，吉福明日香，内田洋平，武田浩一郎，東　裕子，河井一浩，金蔵拓郎
2012年鹿児島大学病院皮膚科手術統計
第165回日本皮膚科学会鹿児島地方会（2013／4／14，鹿児島）

7．多田浩一，青木恵美，河井一浩，金蔵拓郎
小児に発症したerythema elevatum diutinum（EED）の一例
第165回日本皮膚科学会鹿児島地方会（2013／4／14，鹿児島）

8．青木恵美，多田浩一，勝江浩未，河井一浩，金蔵拓郎
広範囲な皮膚硬化を伴った好酸球性筋膜炎の1例

第165回日本皮膚科学会鹿児島地方会（2013／４／14，鹿児島）

９．吉福明日香，河井一浩，金蔵拓郎
表皮上層に角化細胞壊死を認める非定型疹を呈した成人 Still 病の１例.
第165回日本皮膚科学会鹿児島地方会（2013／４／14，鹿児島）

10. 馬場直子，東　裕子，河井一浩，片平充彦，金蔵拓郎
Nevoid hyperkeratosis of the nipple and areolaの男性例
第165回日本皮膚科学会鹿児島地方会（2013／４／14，鹿児島）

11. 米良健太郎，地村　望，久保秀通，河井一浩，金蔵拓郎，宇宿一成，金子朋絵
放射線照射部位に一致して皮疹が再燃した尋常性天疱瘡の１例
第165回日本皮膚科学会鹿児島地方会（2013／４／14，鹿児島）

12. 武田浩一郎，馬場直子，青木恵美，坂ノ上正直，持冨勇次，藤原　浩，河井一浩，　金蔵拓郎
Lyme 病の１例
第165回日本皮膚科学会鹿児島地方会（2013／４／14，鹿児島）

13. 勝江浩未，坂ノ上正直，吉福明日香，久保秀通，川上延代，河井一浩，金蔵拓郎
Gardner-Diamond 症候群の１例
第165回日本皮膚科学会鹿児島地方会（2013／４／14，鹿児島）

14. 畠中美帆，東　裕子，福重智子，馬場直子，河井一浩，金蔵拓郎
（研究演題）悪性黒色腫の浸潤・転移におけるCD147/Basigin の役割
第165回日本皮膚科学会鹿児島地方会（2013／４／14，鹿児島）

15. 青木恵美，松下茂人，坂ノ上正直，畠中美帆，　馬場淳徳，馬場直子，米良健太郎，武田浩一郎，
河井一浩，金蔵拓郎
乳房外 Paget 病の真皮内浸潤パターンとリンパ節転移
第112回日本皮膚科学会総会（2013／６／14－16，横浜）

16. 勝江浩未，松下茂人，坂ノ上正直，河井一浩，　金蔵拓郎
骨化を伴った巨大な Sclerosing epithelioid fibrosarcomaの１例
第112回日本皮膚科学会総会（2013／６／14－16，横浜）

17. 多田浩一，青木恵美，内田洋平，河井一浩，金蔵拓郎
Blastic plasmacytoid dendritic cell neoplasm の一例
第112回日本皮膚科学会総会（2013／６／14－16，横浜）

18. 武田浩一郎，川上延代，吉福明日香，西馬場理恵，河井一浩，金蔵拓郎
若年性骨髄性白血病に伴ったトリコスポロン症
第112回日本皮膚科学会総会（2013／６／14－16，横浜）

19. 宮内俊成，西村真智子，柴　景子，齋藤奈央，阿部理一郎，清水　宏，岡田耕平，重松明男，
遠藤知之，豊島崇徳，河井一浩
CD4-/CD8- 進行性表皮向性細胞傷害性 T 細胞リンパ腫の１例
日本皮膚科学会北海道地方会第394回例会（2013／６／２，旭川）

20. 有村亜希子，多田浩一，勝江浩未，青木恵美，久保秀通，武田浩一郎，河井一浩，金蔵拓郎
環状紅斑を呈した ATL の３例
第11回南九州地区合同皮膚科地方会（日本皮膚科学会第210回熊本地方会・第135回宮崎地方会・第

166回鹿児島地方会・第67回沖縄地方会）（2013／７／13－14，那覇）

21. 勝江浩未，多田浩一，山筋好子，米良健太郎，久保秀通，松下茂人，河井一浩，金蔵拓郎
オゼックスによるアナフィラキシーの１例
第11回南九州地区合同皮膚科地方会（日本皮膚科学会第210回熊本地方会・第135回宮崎地方会・第166回鹿児島地方会・第67回沖縄地方会）（2013／７／13－14，那覇）

22. 内田洋平，河井一浩，金蔵拓郎
皮膚病変を主とした慢性型またはくすぶり型ATL で予後不良な症例：症例１－６
平成25年度厚生労働省科学研究費補助金（がん臨床研究事業）「ATL の診療実態・指針の分析による診療体制の整備」班（塚崎班）症例検討会（2013／７／27，東京）

23. 河井一浩，内田洋平，金蔵拓郎
皮膚病変を伴うATLの予後因子
日本皮膚科学会新潟地方会第370回例会（2013／８／３，新潟）

24. 勝江浩未，河井一浩，多田浩一，松下茂人，大島孝一，金蔵拓郎
Other iatrogenic immunodeficiency-associated lymphoproliferative disorderの１例
第29回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会（2013／８／９－10，甲府）

25. 青木恵美，坂ノ上正直，松下茂人，勝江浩未，河井一浩，金蔵拓郎
治療に難渋しているメルケル細胞癌の１例
第29回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会（2013／８／９－10，甲府）

26. 内田洋平，河井一浩，指宿敦子，金蔵拓郎
（シンポジウム「乾癬および自然免疫の最前線」）表皮内$\gamma\delta$T細胞の活性化制御シグナル
第65回日本皮膚科学会西部支部学術大会（2013／11／９－10，鹿児島）

27. 畠中美帆，東　裕子，福重智子，馬場直子，河井一浩，金蔵拓郎
悪性黒色腫の浸潤・転移におけるCD147/Basigin の役割 ― 細胞間伝達機構についての検討 ―
南九州腫瘍研究会第23回学術集会（2013／11／15，鹿児島）

28. 勝江浩未，吉福明日香，米良健太郎，久保秀通，東　裕子，松下茂人，河井一浩，金蔵拓郎，指宿敦子
テラプレビル・ペグインターフェロン・リバビリン３剤併用療法による Stevens-Johnson症候群の１例
第43回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会学術大会（2013／11／29－12／１，金沢）

29. 多田浩一，有村亜希子，内田洋平，久保秀通，松下茂人，河井一浩，金蔵拓郎
結節性紅斑を契機に結核性リンパ節炎が発見された１例
第167回日本皮膚科学会鹿児島地方会（2013／12／15，鹿児島）

30. 久保秀通，松下茂人，東　裕子，武田浩一郎，吉福明日香，多田浩一，久留光博，玉井真理子，三好逸男，江口裕可，平田宗嗣，喜島祐子，吉中平次，河井一浩，金蔵拓郎
乳房に生じた脈管肉腫の２例
第167回日本皮膚科学会鹿児島地方会（2013／12／15，鹿児島）

31. 折目真里，富山勝博，吉田　暁，穂苅　諭，橋立英樹，河井一浩，石井文人，橋本　隆
閉塞性細気管支炎を合併した抗ラミニン332類天疱瘡の１例
日本皮膚科学会新潟地方会第372回例会（2013／12／14，新潟）

32. 畠中美帆，東　裕子，福重智子，馬場直子，　河井一浩，金蔵拓郎
悪性黒色腫の浸潤・転移におけるCD147/Basigin の役割 ― 細胞間伝達機構についての検討 ―
第２回ケラチノサイトと免疫を勉強する会（2014／３／29，東京）

講演

１．河井一浩
糖尿病の皮膚病変
第37回木戸病院糖尿病センター・スタッフ会議学習会（2014年２月13日，新潟）

その他

学会活動

◇河井一浩
・日本研究皮膚科学会（評議員）
・日本皮膚悪性腫瘍学会（評議員）
・皮膚科免疫セミナー（運営委員）
・皮膚悪性リンパ腫ガイドライン策定委員
・J Dermatol（Section Editor）

学会座長

◇河井一浩
・第65回日本皮膚科学会西部支部学術大会モーニングセミナー座長（2013／11／10，鹿児島）
・第38回皮膚科免疫セミナー座長　（2014／３／１，東京）

Journal Review

◇河井一浩
・J Invest Dermatol（２編）
・J Dermatol Sci（３編）
・J Dermatol（29編）

研究費

◇河井一浩（分担）
・厚生労働科学研究費補助金（がん臨床事業）H23－がん臨床－一般－022「ATLの診療実態・指針の分析による診療体制の整備」

学生教育・講義

◇河井一浩
・鹿児島大学医学部非常勤講師
・鹿児島大学医学部M４講義「湿疹・皮膚炎」（2013／６／17）

資格取得

◇河井一浩

・臨床研修指導医（2013／11／３）

院内活動

◇佐藤信輔

・褥瘡対策委員

◇河井一浩

・地域包括室会議委員

・医療情報システム管理運営委員

・備品・医療材料購入委員

・基幹型臨床研修指定病院準備会委員

【耳鼻咽喉科】

1．活動報告

2．研究業績

論文・著書

学会発表

講演

その他

【眼科】

1．活動報告

2．研究業績

論文・著書

学会発表

講演

その他

【歯科口腔外科】

1．活動報告

2．研究業績

論文・著書

1．Ding P，Campbell-Malone R，Holman SD，Lukasik SL，Fukuhara T，Gierbolini-Norat EM，Thexton AJ，German RZ.
Unilateral Superior Laryngeal Nerve Lesion in an Animal Model of Dysphagia and lts Effect on Sucking and Swallowing.
Dyspagia 28：404-412，2013.

学会発表

1．星名由紀子，芳澤享子，三上俊彦，船山昭典，新美奏恵，新垣　晋，林　孝文，程　珺，朔　敬，齊藤　力
ビスフォスフォネート関連顎骨壊死に合併した下顎扁平上皮癌の１例
第37回日本頭頸部癌学会（2013／６／13－14，東京）

講演

その他

【石山診療所】

1．活動報告

2．研究業績

論文・著書

学会発表

講演

その他

【木戸クリニック】

1．活動報告

2．研究業績

論文・著書

1．須永隆夫，犬飼賢也，野本真由美
　冷えを伴っためまいに当帰四逆加呉茱萸生姜湯が有効であった３症例
　日本東洋医学会雑誌64：330-335，2013.

学会発表

講演

その他

2．看護部

1．活動報告

2．研究実績

論文・著書

学会発表

1．江口真理子，植田智明，山谷美幸
　透析室における音の感じ方とその要因
　第55回新潟透析懇話会学術集会（2013／４／21，新潟）

2．金澤実和子，舟越羊子，坂井静子，谷黒房子，増井しのぶ，坂井可奈，涌井陽子，濱　ひとみ，荻原智子，津田晶子
　透析予防療養指導を契機に療養意欲が向上し、血糖コントロールと腎症コントロールが改善した１例
　第43回新潟糖尿病談話会（2014／２／15，新潟）

講演

その他

3．医療安全管理室

1．活動報告

医療安全研修会

新入職員対象

４月３日　医療安全研修会（全職種対象）　60名
４月９日　看護部新入職員医療安全研修会　17名
10月２日　看護部新入職員６ヶ月研修会　17名

全職員対象

５月　平成24年度、部署別インシデント集計と振り返り
　インシデントレポート報告を部署別に集計し、繰り返し事例や警鐘事例を提示し、部署ごとに振り返り作業を行っています。　283名

３月　転倒・転落予防策アンケート
　転倒・転落予防策の教育目的でアンケートを実施。転倒転落予防策64項目についてセルフチェックの質問形式で実施。　399名

９月14日　救急・AED 研修会　37名

院外活動

医療安全管理者　佐藤みゆき

新潟県看護協会にて、医療・看護安全委員として新潟県看護協会での研修企画運営を行っています。

感染防止対策委員会・感染対策チーム研修会

院内職員研修

４月　新入職員研修会：病院における感染対策　60名
４月　看護部新入職員染研修会：感染研修会　17名
６月　看護部感染研修会（複数回）：標準予防策　110名
７月　全職員対象感染研修会：抗菌薬の適正使用　84名
（講師：新潟市民病院塚田先生）
10月　全職員対象感染研修会：感染経路別予防策（部署別研修）　452名
12月　診療部研修会：抗菌薬適正使用　28名
３月　全職員対象感染研修会：職業感染、針刺し、肝炎ウイルス　411名

感染防止対策加算連携施設間カンファレンスの開催

７月　第１回感染防止対策加算連携施設間カンファレンス：TDM/耐性菌動向
９月　第２回感染防止対策加算連携施設間カンファレンス：職業感染対策の当院の現状
11月　第３回感染防止対策加算連携施設間カンファレンス：ICT活動
３月　第４回感染防止対策加算連携施設間カンファレンス：老健施設感染対策

院外研修

9月　なじょも感染研修会：高齢者施設における感染対策　15名
10月　なじょも感染研修会：ノロウイルス感染対策　32名
11月　ほほえみの里感染研修会：高齢者施設における感染対策　29名

院外施設感染対策ラウンド

6月　なじょもショート感染対策ラウンド
7月　ほほえみの里感染対策ラウンド
9月　ほほえみの里感染対策ラウンド

施設外研修

8月　東新潟病院職員対象感染研修会：ノロウイルス感染研修会　80名

2．研究業績

論文・著書

学会発表

講演

その他

・新潟県看護協会，看護の日事業ポスター展示
　院内暴力対応策　木戸病院での取り組み（2013／5／13）

4．薬剤部

1．活動報告

感染制御における業務として、病棟薬剤師配置に向け抗 MRSA 薬の適正使用推進のための講習会を開き、点滴静注用バンコマイシン、ハベカシン注射液、注射用タゴシットの初期投与設計と血中濃度測定後の投与設計提案について全薬剤師が習得しました。薬剤師介入により薬物血中濃度モニタリング（TDM）実施率の向上がみられました。また、院内感染講習会をはじめ、研修会に積極的に参加しました。

2．研究業績

論文・著書

学会発表

講演

その他

5．診療技術部

【検査科】

1．活動報告

2．研究業績

論文・著書

学会発表

1．池主雅臣，鈴木克弥，斎藤　修，飯島賢一，和泉大輔，佐藤光希，古嶋博司，南野　徹，岩渕三哉
神経電気刺激と高周波通電による腎動脈自律神経興奮への介入
第30回心電学会学術集会（2013／10／11－12，青森）

2．鈴木克弥，斎藤　修，大矢佳奈，阪井絵里伽，渡邊美友貴，大井恵子，神林真弓，飯沼裕美
体位変換と運動に伴う QT 間隔変動とBazett・Fridericia 補正
第78回日本循環器学会学術大会（2014／３／21－23，東京）

3．斎藤　修，鈴木克弥，大矢佳奈，阪井絵里伽，渡邊美友貴，田川　実，中村裕一，津田隆志，
加藤公則，池主雅臣
トレッドミル運動負荷試験からみた健常例 J 波の動向
第78回日本循環器学会学術集会（2014／３／21－23，東京）

4．斎藤　修，鈴木克弥，阪井絵里伽，渡邊美友貴，大矢佳奈，飯島賢一，和泉大輔
連続 Wavelet 周波数解析法を用いた心室細動の電気生理学的特長 〜 自然停止 VF と持続 VF の比較 〜
第78回日本循環器学会学術集会（2014／３／21－23，東京）

講演

その他

【病理検査科】

1．活動報告

2．研究業績

論文・著書

学会発表

講演

その他

【放射線科】

1．活動報告

2．研究業績

論文・著書

学会発表

講演

その他

【リハビリテーション科】

1．活動報告

抄読会

毎週木曜朝礼後20分程度。整形外科医・神経内科医も参加

理学療法部門

定例勉強会：毎月１～２回30分程度。主に伝達講習

症例検討会：毎月１～２回15分程度

作業療法部門

定例勉強会：毎月１回30分程度

症例検討会：毎月１回20分程度

言語聴覚療法部門・訪問リハ部門

定例勉強会：毎月１～２回40分程度

院外活動

理学療法士　江川真司

新潟県理学療法士会学術局員として、年に数回の研修会等の企画運営をしています

言語聴覚士　本田俊一

新潟県言語聴覚療法士学術局員として、研修会等の企画運営をしています

2．研究業績

論文・著書

学会発表

１．江川真司

継続した運動と理学療法により、活動性と内科的コントロールが良好であった糖尿病・変形性膝関節症・大腿骨頚部骨折の１症例

第63回日本病院学会（2013／６／27－28，新潟）

２．江川真司

急性期病院一般病床における病棟専従に向けた療法士の病棟配置・病棟リハビリの取組み

第22回新潟県理学療法士学会（2013／12／７－８，新潟）

講演

その他

学会座長

◇江川真司

・第22回新潟県理学療法士学会　一般演題座長

【栄養科】

１．活動報告

栄養教育・栄養指導

集団：糖尿病教育入院１週間コース

年間９回実施（参加者　76名／年）

糖尿病・肥満教室（１日体験型・昼食付）

年間12回実施（参加者　81名／年）

個別：入院時食事指導　438件

外来食事指導　2406件

（透析予防療養指導　213件／年　外来透析患者指導　324件/年含む）

実習生受入

管理栄養師養成課程：新潟医療福祉大学３週間：１名

北里大学専門学院４週間：１名

新潟県立大学　　２週間：２名

調理師養成課程：新潟調理師専門学校より７月／12月／３月

各３週間男女１名ずつ受入

班会

職員派遣20回

科内学習会・ミーティング

栄養科全職員対象：月２回30分程度（班活動の発表や討議、院外研修会の伝達講習など）

管理栄養師対象：年３～４会30分程度(業務分担・伝達講習・現状の課題の検討)

院外研修会参加

管理栄養師：栄養士会主催の研修会　年３～４回／糖尿病療養指導士認定更新のための研修会

日本病態栄養学会（学会員）／日本静脈経腸栄養学会（学会員）

新潟市病院給食研究会／新潟市保健所指導研修会

調理師：新潟市病院給食研究会　年４回程度

（内容：食品衛生・治療食実習・治療食の学習・業務検討発表会）

院外活動

調理師　中村玲美

新潟市病院給食研究会調理理事として研修会など企画運営しています

管理栄養師　山口朝子

新潟県臨床栄養研究会役員として研修会の企画運営しています

新潟市小児糖尿病キャンプコアスタッフとして企画運営しています

２．研究業績

論文・著書

学会発表

１．山口朝子
「1型糖尿病の栄養指導にカーボウントを導入して」
平成25年新潟県栄養士会医療事業部春季研修会（2013／５／11，新潟）

２．山口朝子
ポスター発表「１型糖尿病の栄養指導にカーボカウントを導入して」
第56回日本糖尿病学会（2013／５／16－18，熊本）

３．山口朝子
「１型糖尿病患者に外来で実施したCGMSの結果を通して見えてきた食事との関係の問題点」
第43回新潟糖尿病談話会（2014／２／15，新潟）

講演

その他

学会座長

◇山口朝子
・第63回日本病院学会　ポスター発表座長（2013／６／27－28，新潟）

講義

◇山口朝子
・第４回新潟県地域糖尿病療養指導士認定更新のためのスキルアップトレーニング講師
・新潟市糖尿病対策推進協議会主催「糖尿病ミニ講座」講師

◇新村友子，由澤咲子
・岡方中学校講義（６月，２月）

【臨床工学科】

1．活動報告

ＭＥセンターにおける中央管理機種を増加いたしました
医療機器管理業務において点検機器を増加いたしました
機器の機種変更を行うなど、医療機器に関わる問題点の改善をいたしました
新人看護師を対象とした医療機器の院内学習会を開催いたしました
医療機器の安全性情報を厚生労働省へ報告いたしました
透析部門では透析液管理を適切に実施いたしました

2．研究業績

論文・著書

学会発表

講演

その他

6．事務部

1．活動報告

事務部は、組織機構の再編により医事課・診療事務課・庶務課の３課体制となり、総務・庶務係の部門が生協事務局より独立し業務が開始されましたが総務課との業務区分が難しく今後の課題となりました。

2013年度も『患者の権利章典』を豊かに実践する事務部を基本とし、地域から選択される医療サービスの提供につとめました。また、2013年度も(注1) 利用者満足度調査を実施し、そのデータをもとに、地域から選択される医療サービスの提供につとめるとともに、「医療福祉生協のＱＩ（案）」を活用し、医療・介護事業の質の向上にとりくみました。

常に収入増・赤字縮小に向け経営面での情報提供を重視し、24時現在の入院患者在院数280人の確保、退院を含む１日平均295人以上の患者確保に向けての管理・運用につとめました。また、日当円36,500円以上の算定を目指すため、病棟単位での定期的な会議（病棟運営会議）の毎月開催を最重要課題とし、チーム医療の活性化による病棟内・病棟間の情報共有を推進しましたが毎月開催とならない部署もあり改善が必要です。

『データ提出加算（入院中１回）』及び『25対１急性期看護補助体制加算』の届出が受理され日当円増に寄与しました。

外来待ち時間解消などのため、開業医・診療所への逆紹介チラシの配布を開始しました。

基幹型臨床研修指定病院の取得のための準備を行いました。

2．研究業績

論文・著書

学会発表

講演

その他

(注1) 前回アンケートおよび全国平均と比較して評価は厳しいものとなりました。

7．地域包括部

1．活動報告

病院広報誌の発行

病院広報誌『結』 No.17. No.18. No19. No20. 発行

地域医療支援関連業務

東新潟地域医療連携ネットワーク

東北７県医療連携実務者ネットワーク

NHCAP懇話会

医療連携研修会

東新潟循環器研究会

東新潟糖尿病懇話会

2．研究業績

論文・著書

学会発表

講演

その他

8．健診センター

1．活動報告

2．研究業績

論文・著書

学会発表

講演

その他

9．研究部

1．活動報告

研究部は、診療録・図書の管理を行っており2013年４月より病歴担当３人、図書担当１人の４人体制となった。業務内容としては診療録の監査、病名および処置のコーディング業務、病名検索、地域がん登録、各種ＱＩの作成、紙カルテの貸出、蔵書管理、文献検索補助、木戸病院医誌の編集･発行等を行っている。７月からは「データ提出加算」算定の為、医事課と協力しＤＰＣコーディングにおけるＩＣＤコードの相談・様式１の確認作業を行うようになった。

またがん登録の法制化に向け、病歴担当者全員が院内がん登録初級者研修を受講し研修会等にも積極的に参加した。

診療録の監査についてはまだまだ検討課題が多く、医療の質の向上に少しでも貢献できるよう改善に努めていきたい。

2．研究業績

論文・著書

学会発表

１．菊地順子，田辺志津子，眞田瑞樹，荒木舞花
新病院図書室への移転手順と改善点
第46回新潟県病院図書協会研修会（2013／６／14，新潟）

講演

その他

◇蔵書数

単行書　2370冊

和雑誌　101タイトル

洋雑誌　31タイトル

◇文献検索システム

J-DreamⅢ

最新看護索引Web

◇定期購読雑誌一覧

洋雑誌

American Journal of Cardiology

American Journal of Obstetrics & Gynecology

Circulation

Clinical Journal of American society of Nephrology

Diabetes

Diabetes Care

Diabetologia

Gastroenterology

INFECTION CONTROL

J.of Clinical Rehabilitation

Journal of Bone&Joint Surgery(Vol.American)

Journal of Bone&Joint Surgery（Vol.British）

Journal of Clinical Endocrinology&Metabolism

Journal of Orthopaedic Science

Journal of the American Academy of Dermatology

Journal of the American College of Cardiolog

Lancet

Laryngoscope

nature Reviews Neurology

Pediatrics

Surgery Today

the inter of Periodontics&Restorative Dentistry（和訳）

和雑誌

看護部長通信

あたらしい眼科

医事業務

胃と腸

医療判例解説

インナービジョン

栄養と料理

おはよう21

オペナーシング

画像診断

家族看護

眼科ケア

看護

看護きろくと看護過程

看護主任業務

関節外科

感染制御

肝胆膵

きょうの健康

クインテッセンスデンタル・インプラントロジー

クリニカル・エンジニアリング

ケアマネジャー

ケアワーク

継続時代の外来看護

月刊新医療

月刊デイ

月刊保険診療

月刊薬事

検査と技術

呼吸

呼吸器ケア

呼吸器内科

呼吸と循環

コミュニティケア

作業療法ジャーナル

産婦人科の実際

耳鼻咽喉科・頭頸部外科

手術

消化器外科

消化器外科ナーシング

消化器内視鏡

小児科診療
小児科臨床
小児看護
小児内科
助産雑誌
新医療
神経内科
心臓
腎と透析
生活協同組合研究
整形・災害外科
整形外科
税務通信購読料
脊椎脊髄ジャーナル
胆と膵
地域保健
地域連携入退院支援
デルマ
デンタルハイジーン
透析ケア
日経ヘルスケア
日本医事新報
日本胸部臨床
日本歯科評論
乳癌の臨床
ハートナーシング
皮膚科の臨床
病理と臨床
福祉新聞　H25年度
プラクティス
ヘルスケア・レストラン
補綴臨床
ホルモンと臨床
メディカルテクノロジー
薬事日報
薬局
理学療法
理学療法ジャーナル
臨床栄養
臨床眼科
臨床外科
臨床消化器内科
臨床と微生物
臨床婦人科産科
労働基準広報

表紙題字

佐野誠一

「住民の意向を反映させた住民主体の医療と福祉の地域づくり」を念頭に、1975年1357名の組合員と新潟医療生活創立総会を開催。
翌1976年５月６日　88床で木戸病院を開院。初代理事長に就任。
2003年「消費生活協同組合等に対する厚生労働大臣表彰」受ける。
2005年長年の社会活動が認められ高齢者叙勲で、「旭日双光賞」を受賞。
2011年６月理事長退任。

編集後記

無事に木戸病院医誌Vol. 13発行の日を迎えられました。寄稿していただいた方々にこの紙面をお借りして御礼を申し上げます。

編集にあたり内容を再検討し、昨年度までとは異なる構成で編集させて頂きました。初年度ということもあり内容的には不十分ではありますが、今後は年報としての機能をもった医誌として足跡をたどれるような内容にしていきたいと考えております。

医誌に対してのご意見・ご要望など各編集委員にお寄せ下さい。

編 集 委 員

河 井 一 浩　三 膳 景 子　田 部 正 一　田 中 弘 代　井 上 彩 子
菊 地 順 子　荒 木 舞 花　仲 井 智恵子　眞 田 瑞 樹

木戸病院医誌　　2014　VOL. 13

平成26年12月

新潟医療生活協同組合

木　戸　病　院　　TEL 025-273-2151
石 山 診 療 所　　TEL 025-276-5111
健診センター　　TEL 025-270-1831
木戸クリニック　　TEL 025-274-7960

〒950-0862　新潟県新潟市東区竹尾４丁目13番３号